

市民と市長の ほっとミーティング@市長室

平成26年度 第2回 テーマ「高齢化社会」

開催結果報告書

1 開催日時 平成26年（2014年）9月30日（火）

午後7時から午後9時まで

（午後7時から新庁舎見学、午後7時30分からミーティング）

2 開催場所 市役所本館 市長室

3 出席者 参加者9名 傍聴者10名



ほっとミーティングの様子

4 市長あいさつ

皆様、こんばんは。今夜は「市民と市長のほっとミーティング@市長室」に御参加いただき誠にありがとうございます。御見学いただいた新庁舎は1期工事が完了し、多くの部署が移ってまいりました。これからの2期工事では、旧庁舎を解体して低層階の庁舎を建設する計画です。この庁舎は市民の皆様の御協力によって完成しました。新しい庁舎に負けないよう、私をはじめとする職員一丸となり、効率的できめ細やかな行政サービスを進めてまいります。

このほっとミーティングは、就任以降取り組ませていただいている、市民の皆様との対話集会です。就任させていただいた平成23年度は、防災対策をテーマに市内4か所にて開催しました。平成24、25年度は2年間をかけ、地区自治会連合会単位にて市内25か所に伺い、地域のまちづくりをテーマに対話をさせていただきました。

御存知のとおり、平塚市には自治基本条例があります。自治の基盤となる市民の皆様と事業者、議会、行政が主体となってまちづくりを進める必要があります。そのために、私は今日のような機会を大切にしたいと考えています。本日のテーマは「高齢化社会」です。地域の皆様のお声によって生まれた具体的な政策も多数ありますので、御紹介させていただきながら皆様の御意見を伺い、是非これからの市政の参考にさせていただきたいと思っております。

また、皆様からいただく御意見や御質問には、できるかぎり私から直接お話しさせていただきますが、具体的な数字などこの場で分からないこともあるかと思っております。その際には、事務局を通して担当に確認し、改めてお返しさせていただきます。どうぞ、本日はよろしく願いいたします。

5 主なミーティングの内容

① 高齢者の見守りについて

【市長】

平成24年8月、崇善地区で開催したほっとミーティングの参加者の方から、マンションのお隣に住む独居高齢者の方がお風呂で亡くなって数日後に発見されたというお話を伺いました。この平塚市でも高齢化が進む中、行政が主体となる高齢者の方を見守るシステムが必要になるとの御意見でした。同様の声は多くの地域で聞かせていただき、早急に対応すべき課題であると感じました。

そこで、平成25年度予算において、高齢者在宅時緊急通報システムやはいかいSOS見守りGPS、お話し見守り歩数計（ひらつかミルック）という高齢者の方を見守る制度を展開させていただくことになりました。高齢者在宅時緊急通報システムとは、自宅で何かあった時に安心センターに通報が入り、センターから家族などへ連絡するシステムです。はいかいSOS見守りGPSとは、行方がわからなくなった方をGPS機能で検索できる発信機を貸し出す制度です。お話し見守り歩数計（ひらつかミルック）とは、通話機能や自宅での見守りを行うセンサー、GPS機能を有するもので、普段は歩数計として介護予防に活用できるものです。今年度、これらの取り組みは2年目に入りました。ひらつかミルックの利用者は徐々に増えていますが、高齢者在宅時緊急通報システムとはいかいSOS見守りGPSの利用者を増やすことが現在の課題です。今後は市内に8か所ある高齢者よろず相談センターや広報紙などで、周知を図っていきたいと考えます。

他にも、高齢者世帯や独居高齢者の方が自分の情報を記入して自宅の冷蔵庫に貼っておくひらつかあんしんカードがあります。緊急時には、救急隊がカードの情報をもとに、ケアマネジャーなどへの連絡を行うことができます。新しく名刺サイズの携帯できるカードを作成し、1万2,000枚を配布する予定です。外出先での緊急時にも、カードを利用した本人情報の確認が可能になります。

このように、それぞれの地域で行っていただいている社会福祉協議会や民生委員児童委員とのつながりだけでは把握しきれないものについて、個人対応できる制度を進めています。

【参加者】

ひらつかあんしんカードについて、緊急時に見つけられなければ役に立ちません。第3者による定期的な点検、つまり冷蔵庫に常時貼ってあることの確認が必要です。

また、認知症の方もこのカードを使用できますか。

【市長】

平成22年度には、このカードを活用したケースが11件ありました。しかし、平成25年度には4件に減少したため、救急隊による冷蔵庫の確認を徹底しました。ケアマネジャーの事業所名など、患者の方の詳細な情報を入手できるものですので、御意見のとおり、普段のチェック体制も考える必要があります。

ここで新しくなったカード1万2,000枚を配布する予定ですが、認知症の方も対象になります。

【参加者】

マンションに住む高齢者世帯や独居高齢者の見守り強化に取り組んでほしいです。私が住むマンションでは、住民の3割が高齢者で、日中には4割の住民しか残りません。さらに、若い方は交流を持ちたがらず、お互いの名前や電話番号さえ知らないため、つながりは非常に薄いです。

【市長】

お住いのマンションのように、地域とのつながりが少ない高齢者の方に利用していただきたいものが、御紹介させていただいた平塚市が行う見守り制度です。平塚市独自の取り組みであるお話し見守り歩数計（ひらつかミルック）には税込月400円（課税区分によって料金が異なる）の負担金がありますが、安心安全のためにも、是非御利用いただきたいと考えます。制度の広がりのため、より一層の周知を図っていきたいです。

地域とのつながりが少なくなる時代ですが、高齢者世帯や独居高齢者の方にお願いしたいことは、自らがここにいるという発信です。周りの方が把握していることで、災害時や緊急時の助けにつながることを訴えていきたいと思えます。

【参加者】

自治会は、自治会に加入する高齢者の情報は把握しています。行政が自治会に加入しない高齢者の情報を把握する必要がありますが、まずは自治会に加入してもらおう取り組みも必要になると思えます。

② 買い物弱者対策・高齢者のための交通政策について

【市長】

中心街から離れた地域では、不便な交通などの理由から、市街地に転居される傾向があります。常々、コンパクトシティという言葉でお話しさせていただきますが、これからは御自身が住む地域で、医療や介護、買い物などの充実が求められる時代になります。これまでのほっとミーティングにおいても、難民という表現で、買物の不便さに関わる御意見は多く伺ってきました。買物の不便さへの対策としては、平成25年3月、市内の商店会を通じて掲載店舗を募集し、宅配可能な市内の店舗情報をまとめた買い物便利帳を作成しました。この買い物便利帳は、町内福祉村や地区社会福祉協議会、高齢者よろず相談センターにてお配りさせていただきました。平成26年1月には、西海岸マリノード周辺の宅配可能業者の情報をまとめた買い物便利マップを作成し、近隣住民への配布や掲載店舗での配布を行っていただきました。また、岡崎地区の町内福祉村「おかざき鈴の里」では、平成25年12月から平成26年3月まで、福祉と商業の連携として、JA湘南（湘南農業協同組合）のあさつゆ広場による出張販売も行いました。他にも、大型のスーパーマーケットなどでは、希望者に宅配してくれるサービスもあるようです。民間のお力も生かしながら、高齢者の方の買物が充実するように取り組んでいきたいと考えます。

買物の不便さに関する御意見とともに、岡崎地区や金目地区などの地域では、行政によるコミュニティバスの運行を希望する御意見も多くいただきました。現在平塚市では、大神地区から平塚共済病院、平塚市民病院へのシャトルバスを運行しています。これは、北部の地域に医療機関がないことを考慮した取り組みです。平塚市には民間のバス会社による中心市街地に向かう扇状の路線が約70経路あります。高齢者の方や障がいのある方が乗り降りしやすい低床バスの購入に対し、平塚市からバス会社へは補助を出させていただいています。行政によるコミュニティバスや乗り合いタクシー運行への御要望は将来にわたる課題として捉えてはいますが、民間バス会社の運行経路との重複や事業者との調整、地域のニーズの把握などを課題として捉えながら、高齢者の方の交通の利便性向上に取り組んでいきたいと考えます。

【参加者】

高齢者にとって、車道と歩道の段差はとても危険です。段差には、光る目印を付けたり、はっきりと区別することで、高齢者の事故を防ぐことができると思います。

【市長】

現在警察と協議しながら、歩行者と自転車、自動車の道を区別するために、ブルーラインを含めた自転車専用道路をつくっています。高齢者の方の事故防止、安全対策にもつながる取り組みです。

バリアフリー法も制定され、市街地を中心とするバリアフリー化が必要になりました。皆様御存知かと思いますが、本日市役所前の交差点が新しくなりました。この交差点もバリアフリーに対応しているものです。他にも、市役所から平塚駅に向かう国道1号に架かる十字の歩道橋はバリアフリー化が必要だけでなく、災害時には、避難などの妨げになる危険が心配されます。中心街の御要望とともに、警察とは撤去に向けた協議を行っていきたいと考えています。

また、今年の9月初めには都市計画が決定し、約19ヘクタールある日産車体跡地には、商業施設や住宅街を含めた新しいエリアが生まれる予定です。新しい地域や中心街には市内だけでなく、市外や県外からも多くの人が来てくれると思います。多くの人を迎え入れる平塚市には、高齢者の方や障がいのある方に優しいまちづくりが求められます。具体的には、バリアフリー化への取り組みが一番重要になると考えていますので、しっかりと進めていきたいと思っています。

【参加者】

国道の横断歩道の信号機はとても短く感じます。高齢者や障がいのある方が安全に横断するためには、横断歩道の青信号の時間を長くするべきです。特に、私が普段利用する崇善小学校南側の国道1号を渡る横断歩道の信号は短く感じます。

【市長】

信号機の設定時間について、詳しい設定方法は事務局を通して担当に確認し、改めてお答えさせていただきます。私が住む田村地区から市役所まで来る時、国道129号には20個ほどの信号機がありますが、日によって信号機でよく停まる日と全く停まらない日があります。信号機の設定時間は道路の交通量や横断歩道の距離を考慮して設定されているそうです。しかし、高齢者の方や障がいのある方にとって危険があるという御意見をいただきましたので、今後の課題として捉えさせていただき、歩行者などの安全を確保していきたいと考えます。

担当課回答（集会後、次のとおり担当課に確認しました。）

信号機については平塚警察署が所管のため、御要望について相談したところ「青信号の表示時間については、現場状況にもよりますが、横断歩道1メートルあたり約1.5秒と換算し表示時間を設けています。要望された周辺に設置された国道1号を跨ぐ信号機は、青点灯約25秒・青点減約5秒となっており、約20メートルの横断が可能な時間を設けていますので、表示時間は妥当かと思われます」とのことでした。信号機については、警察署が所管であるので、詳しい説明等が必要な場合は、直接平塚警察署へお越しく下さいとの案内もありました。

また、市職員が現地を調査したところ、2歳ほどの幼児が保護者とともに横断できていることも確認できました。

（事務担当は交通政策課自転車対策・交通安全担当）

③ 高齢者のためのまちづくりについて

【市長】

自治日報という新聞によると、9月15日現在、日本全国65歳以上の方の割合は25.9パーセントになりました。前年と比べ、111万人増えて3.5パーセントの増加とのことです。約10年前にはじまった高齢化社会も、今では超高齢化社会に入りました。また、2013年には、高齢者のいる世帯が2,086万世帯ということで、初めて2,000万世帯を超えました。単身高齢者世帯は552万世帯、その中のマンションや共同住宅入居者の割合は約38パーセントとのことでした。全国的なことですが、平塚市においても、この高齢化を前提としたまちづくりに取り組む必要があります。この課題を捉えられなければ、決して住みやすいまちにはなりません。ハード面の整備だけでなく、医療や介護、予防、生活支援、住まいが切れ目なく提供される地域包括ケアシステムという考え方が基本になることを、行政はしっかりと認識していく必要があります。また、来年の4月からは、介護保険の要支援が介護保険法の適用から外れて自治体の施策に反映されることになりました。これは、介護予防については、自治体が主体で行うという国の考えによるものです。すでに地域では健康体操など、健康寿命増進に向けた活動を行っていただいておりますが、私はこの自治体主導の介護予防に精一杯取り組んでいきたいと考えます。

また、特別養護老人ホームについても、3年ごとに設定する高齢者福祉計画の中では、平成26年度までに217床の増設を目標に掲げてきました。新施設については、平成25年12月に80床が完成し、別にも平成27年3月の120床開設に向けて工事中です。これに既存施設の17床増加を加え、目標の217床が達成される見込みです。しかし、数百人待ちの施設も多数あることから、次期高齢者福祉計画では、すでに実施したアンケートなどを参考にし、より多くの入所の可能性を考えていきたいと思っております。

また、施設の開設には国や神奈川県からの補助も関わりますので、国や神奈川県に対する要望についても、しっかりと行っていきたいと考えます。

【参加者】

亡くなった母親が特別養護老人ホームに入所できずに苦労しました。待機児童と同様に待機老人は大きな課題で、今後はさらに増えるはずで、3か月の入院を経て帰宅した自立生活ができない人には、施設入所の課題がやってきます。入所を待つ人数を見れば、施設が不足していることは一目瞭然です。施設の増設について、今後の対策を聞きたい。

【市長】

平塚市では、公的な特別養護老人ホームなどは開設していません。社会法人など民間の取り組みに対して、補助を出させていただいています。特別養護老人ホームにおいては、国や神奈川県の裏付けにもとづきながら、1つのベッドに130万円という支援内容です。この補助には、皆様からいただく介護保険料も含まれます。仮に、施設への入所待ちを解消するために大量のベッドを増やす場合には、介護保険料の増加という形で市民の皆様に影響が出てしまいます。次期高齢者福祉計画に向けたアンケート調査から、これからの施設需要をしっかりと捉え、介護保険料などとのバランスも考慮し、今後3年間の計画に取り組んでいきたいと考えます。

【参加者】

99歳の母が施設に入所しています。自宅での介護を続けてきましたが、この6月に入所できて本当に良かったです。さらに先日、市長から長寿のお祝いをしていただきました。今まで生きてきて市長に会ったことなどなかったため、握手していただいたことが誇りであると本当に喜んでいました。施設には大変お世話になっており、入所してから元気になったように思います。施設の職員の方には本当に頭が下がります。これからは高齢者が増え、職員の方への負担は大きくなるばかりです。是非、施設で働く人が仕事に誇りややりがいを持てるよう、サポートしてあげてほしいです。

【市長】

大変ありがたく思います。施設で働く方の誇りややりがいはもちろんですが、高齢者の方が誇りを持って生活していただくこともとても大切です。元気な高齢者の方に活躍していただく「ひらつか元気応援ポイント事業」という取り組みがあります。施設などで行っていただいた活動に応じたポイント制度で、ポイントに応じて交付金をお出しするものです。これからも、高齢者の方の誇りややりがいを後押しさせていただきたいと考えます。

【参加者】

この制度は、1時間の活動で1ポイント、1ポイントは100円の交付金になります。しかし、交付金には上限が決まっており、50ポイント以上集めた人への交付金は一律5,000円です。中には、50ポイントためた時点で活動をやめてしまう人もいます。上限を撤廃し、一生懸命ボランティアに取り組む高齢者の支援を行うべきだと思います。

【市長】

御指摘いただいた、上限以上活動された方への見返りが無いとのことですが、土屋地区の施設で活動いただいている高齢者の方3名にお話しを伺ったことがあります。本当にありがたい活動に取り組んでいただけていました。その方々は、決してお金のためでなく、元気なうちにこのような活動や奉仕できること自体がうれしいとお話ししていただきました。御指摘は一つの考え方ですが、このような思いを持って活動していただいている方がいらっしゃることをわかっていただきたいと思います。また、その方々からは、金額換算でなく、いつか自分が介護される日が来るかもしれないので、その時に貯めたポイントが還元できる制度になってほしいとも言われましたので、担当課に伝え、研究を行っているところです。

④ 町内福祉村について

【市長】

身近な生活支援やふれあいの場をつくろうという思いから、町内福祉村の取り組みがはじまりました。市内小学校区に1館を目標に、これまで15地区で開設していただくことができました。それぞれ、地域の特性を生かした支え合いやふれあいの活動を行っていただいています。身近な生活支援としては、地区内に住む支援を必要とする人を対象に、車いすの貸し出し、家事やごみ出しの手伝い、話し相手、外出や買い物の付添いなどを行っていただいています。ふれあい交流としては、町内福祉村や自治会館に気軽に立ち寄ってお茶を飲んで話をするような立ち寄り場、高齢者の方と子どもとの交流という子育て支援などに取り組んでいただいています。

平塚市には、概ね小学校区に1館ずつ公的な公民館もあります。この公民館や町内福祉村が地域の中心となり、地域の問題や課題を解決できる仕組みをつくっていきたくと考えています。そして、それぞれの地域の魅力が集まることで、地域の集合体である平塚市の輝きは増すと信じています。このような意味からも、町内福祉村の存在意義は非常に高いと考えています。これからも決して同じスタイルでなく、それぞれの地域に合った、地域の特性を生かした形で町内福祉村の取り組みを進めていただきたいと思います。

【参加者】

高齢者だけでなく、能力のある方が地域で活躍することはとても良いことです。町内福祉村で行われる子育て支援について聞きたい。

【市長】

子育てを経験した民生委員や児童委員など、定期的集まっています。今、子育てに励む若いお母さんの悩みを聞いてアドバイスしたり、実際に子どもと遊んであげたりもします。

【参加者】

地域情報誌にて、地域自治会によるまちづくりが特集されていました。素晴らしい活動が行われていると感心しました。地域のステップアップにより、平塚市が活力あるまちに発展すると思います。

【参加者】

現在、市役所の1階では町内福祉村が紹介されています。市民が町内福祉村を知る良い取り組みです。今後も定期的実施していただき、活動を宣伝してほしいと思います。

7 市長によるまとめ

本日は様々な御意見をいただき誠にありがとうございました。課題を捉え、大いに参考にさせていただきたく思いました。

平塚市も高齢化率は高くなり、人口の減少も起きています。平成22年11月に約26万800人のピークを迎えましたが、現在は約25万7,500人です。私は平塚市には、多くの方から選ばれる住みやすいまちづくりが必要であると考えます。そのためには、若い世代を呼び込むための子育て支援とともに、高齢化社会への対策が必要です。今、認知症がとてもクローズアップされています。県内でも3番目ですが、平塚市には成年後見利用支援センターが完成しました。あれほど充実した施設は他にないと言われますが、高齢者の方や障がいのある方の財産の管理や権利擁護を行うセンターを立ち上げました。高齢になっても住みやすいまちであるための取り組みの一環です。地域包括ケアシステムは社会保障や社会福祉だけではありません。ハード整備も含め、様々な世代を支えていくことが大切ですので、これからも目標を持って取り組んでいきたいと考えます。本日は皆様の率直な御意見ありがとうございました。

アンケート結果報告

【回答数 17件】

年齢

20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	不明
0名	0名	0名	1名	10名	6名	0名

性別

男性	11名
女性	3名
回答なし	3名

質問1 今回の「ほっとミーティング」の開催はどこでお知りになりましたか。

回答

広報ひらつか	10名
市ホームページ	1名
ポスター	0名
自治会など地域から	0名
その他	6名
回答なし	0名

質問2 市長の説明や市長との対話はいかがでしたか。

回答

よかった	7名
まあよかった	7名
どちらともいえない	0名
あまりよくなかった	2名
よくなかった	0名
回答なし	1名

質問3 本日の「ほっとミーティング」のご感想について。

回答

- ・参加者の活発な意見交換は、大変参考かつ刺激になった。
- ・知らなかった高齢者施策を知ることができ、大変ためになった。
- ・焦点がしぼれていない感があった。
- ・出された意見がどれくらい市政に反映されるか見えない。
- ・是非このようなミーティングを続けてほしい。
- ・健康であれば、支える側に立つことができることに気づきました。
- ・勉強になりました。
- ・市長のわかりやすい説明や気づかいに感心しました。
- ・司会の進行が大変良かったと思いました。
- ・出席者の熱意が感じられ、良かったです。
- ・なあなあで進んでしまった感じがあった。
- ・発言は簡潔にわかりやすくしてほしい。
- ・もう少し時間が必要である。
- ・今回は市長の意見も簡潔で活発な意見交換ができたと思います。
- ・一部私見が見られて残念でした。
- ・次回は参加者として対話したいと思いました。